

ピーマン*1 (野菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機 構分類 コード	人畜 毒 性	使用 時期 (日数)	使 用 回 数	疫 病	灰 色 か び 病	斑 点 病	白 絹 病	菌 核 病	う ど ん こ 病	苗 立 枯 病	黒 枯 病	炭 疽 病	斑 点 細 菌 病
アグロケア水	BM2		1	-		◎				◎		◎		
インプレッションクリ ア水	BM2		*f	-								◎		
トップジンM水㊦	1		1	3								◎	◎	
ベンレート水㊧	1		1	3			◎			◎			◎	
アフェットFL	7		1	3		◎	◎	◎		◎		◎		
カナメFL	7	劇	1	4		◎		◎		◎				
カンタスDF	7		1	3		◎						◎		
ケンジャFL	7		1	3								◎		
パレード20FL*2	7		1	3		◎				◎		◎		
アミスター20FL	11		1	4		◎								
スクレアFL	11		1	3					◎				◎	
ファンタジスタ顆水	11		1	3			◎					◎		
ストロビーFL	11		1	3						◎		◎		
ライメイFL	21		1	3	◎									
ランマンFL	21		1	4	◎									
フルビカFL	9		1	4						◎				
セイビアーFL20	12		1	3		◎							◎	
スマレックス水	2		1	5		◎			◎			◎		
ロブラール水	2		1	4		◎			◎					
リゾレックス水	14		*c	1							®			
				1	2			◎						
リゾレックス粉	14		*d	1							®			
サブロール乳	3		1	3			◎			◎				
スコア顆水	3		1	3			◎			◎		◎		
トリフミン水	3		1	5						◎				
ラリー水	3		1	4			◎			◎				
ルビゲン水	3		1	4						◎				
スコア顆水	3		1	3			◎			◎		◎		
セーフガード乳	3		1	3			◎			◎				
ピクシオDF	17		1	3		◎			◎					
レーバスFL	40		1	2	◎									

ピーマン*1 (野菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機 構分類 コード	人 畜 毒 性	使 用 時 期 (日 数)	使 用 回 数	疫 病	灰 色 か び 病	斑 点 病	白 絹 病	菌 核 病	う ど ん こ 病	苗 立 枯 病	黒 枯 病	炭 疽 病	斑 点 細 菌 病
アイーナ20FL	52		1	3		◎				◎			◎	
ミギワ10FL	52		1	3						◎			◎	
オリゼメート粒	P2		*e	1		◎				◎				
ピシロックFL	U17		1	3	◎									
サンヨール乳	M1		1	4						◎				
オーソサイド水80	M4		*a	2							◎			
ダコニール1000FL	M5		1	3		◎				◎		◎	◎	
ダコニールアルファ	M5		1	3		◎				◎		◎		
パルミノFL	M10		1	3						◎				
モレスタン水	M10		1	3						◎				
グッター水㊟	10・1		1	3								◎		
ニマイバー水	10・1		1	3						◎				
ユニフォーム粒	4・11		1	3	◎									
シグナムWDG	7・11		1	2		◎	◎			◎		◎	◎	
パレードプラスFL	7・M5		1	3		◎				◎		◎		
ベジセイバーFL	7・M5		1	3		◎	◎			◎		◎	◎	
フセキエースFL	9・53		1	4			◎			◎				
アミスターオブティFL	11・M5		1	3	◎	◎	◎			◎		◎	◎	
ドーシャスFL	21・M5		1	3	◎		◎							
カスミンボルドー水	24・M1		1	5			◎			◎				◎
パンチョTF顆水	3・U6		1	2						◎				
ジーファイン水	NC・M1		1	-			◎							

㊟：チオファネートメチル含有剤 ◎：ペノミル含有剤 ㊟を使用した場合には同じ作での◎は使用しないこと。その逆も同様（種子への処理および塗布処理を除く）。

*1:ピーマンとシシトウは使用できる農薬が異なる。 *2:ピーマン及びとうがらし類で登録

*a:播種後～2～3葉期まで *c:播種時 *d:播種前

*e:定植時 *f:発病前～発病初期まで ㊟:リゾクトニア菌による病害

ピーマン*1 (野菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機構分類コード	人畜毒性	使用時期(日数)	使用回数	使用条件	アブラムシ類	コナジラミ類	コナカイガラムシ類	アザミウマ類	カメムシ類	マメハモグリバエ類	タバコガ類	ネキリムシ類	ハスモンヨトウ類	コガネムシ類	ケラ類	ハダニ類	チャノホコリダニ類	ネコブセンチュウ
スピノエース顆水	5		1	2					◎			オ							
コロマイト乳	6		1	2			◎											◎◎	
アドバンテージ粒	1A	劇	*b	1					ナ										
ガゼット粒	1A	劇	*b	1		◎			ナ										
バイデートL粒	1A	劇	*i	1		◎			ナ										
			*d	1															◎
ダイアジノン粒5	1B		*c	2								◎				◎			
			*f	3										◎					
ネマキック粒	1B		*d	1															◎
ネマトリンエース粒	1B		*d	1															◎
マラソン乳	1B		1	5		◎												◎	
アージェント水	3A		1	2		◎			カ									◎	
アグロスリン水	3A	劇	1	5		◎						タ							
アグロスリン乳	3A	劇	1	5		◎													
アディオン乳	3A		1	5		◎			◎			タ							
ガードベイトA粒	3A		*L	5									◎						
トレボソ乳	3A		1	3		◎													
ロディー乳	3A	劇	1	3		◎												◎	
アクタラ顆溶	4A		1	3		◎		◎	ナ	◎									
アクタラ粒5	4A		*a	1		◎			ナ										
アドマイヤー顆水	4A	劇	1	2	施	◎			◎										
			*a	1		◎			◎										
			*h	1		◎													
アルバリン顆溶	4A		1	2		◎◎		◎◎											
アルバリン粒			*i	1		◎◎													
スタークル粒	4A		*a	2		◎			◎										
			*j	2		◎													
ダントツ粒	4A		*a	1		◎													
			*h	1		◎													
			*n	2		◎													
ダントツ溶	4A		1	2		◎◎		ナ◎											
バリアード顆水	4A	劇	1	3		◎													
ベストガード溶	4A		1	3		◎◎		ナ											
ベストガード粒	4A		*i	1		◎◎			ナ										
			*a	1		◎◎													
モスピラン顆溶	4A	劇	1	2		◎◎		◎											
モスピラン粒	4A		*k	1		◎◎													
			*a	1		◎													
トランスフォームFL	4C		1	2		◎◎													
ディアナSC	5		1	2		◎		◎			オ	◎							
アグリメック乳	6	劇	1	3		◎												◎	
アニキ乳	6		1	3		◎					オ	◎						◎	
アフーム乳	6		1	2		◎					オ								
コルト顆水	9B		1	2		◎◎													
チェス顆水	9B		1	3		◎													

ピーマン

薬剤名	作用 機 構 分 類 コ ー ド	人 畜 毒 性	使 用 時 期 (日 数)	使 用 回 数	使 用 条 件	ア ブ ラ ム シ 類	コ ナ ジ ラ ミ 類	コ ナ イ ガ ラ ム シ 類	ア ザ ミ ウ マ シ 類	カ メ ハ ム シ 類	マ メ ハ モ グ リ バ エ 類	タ バ コ ガ 類	ネ キ リ ム シ 類	ハ ス モ ン ヨ ト ウ 類	コ ガ ネ ム シ 類 幼 虫 ラ	ケ ダ ニ 類	ハ ヤ ノ ホ コ リ ダ ニ 類	ネ コ ブ セ ン チ ユ ウ
ニッソラン水	10A		1	2													◎	
コテツFL	13	劇	1	2					ミ								◎	
アタブロン乳	15		1	3					ナ				◎					
カウンター乳	15		1	4								オ						
カスケード乳	15		1	3					ナ			オ						
マッチ乳	15		1	4				◎				オ						
ファルコンFL	18		1	2								オ		◎				
マトリックFL	18		1	3								オ						
カネマイトFL	20B		1	1													◎	◎
マイトコーネFL	20D		1	1													◎	
サンマイトFL	21A	劇	1	2			◎											
ダニトロンFL	21A		1	3													◎	
ハチハチ乳	21A	劇	1	1			◎	◎										◎
トルネードエースDF	22A		1	2								オ						
ファイントリムDF	22A		1	2								オ						
アクセルFL	22B		1	3								オ						
モベントFL	23		*g 1	3		灌	灌	灌									灌	灌
スターマイトFL	25A		1	1				◎									◎	◎
ダニサラバFL	25A		1	2													◎	
フェニックス顆水	28		1	2								オ						
ブリロツ粒オメガ	28		*m *e	1		◎	◎	◎										
ブレバソンFL 5	28		*g 1	2			灌					オ		灌				
ベネビアOD	28		1	3		◎	◎	◎				オ		◎				
バリマークSC	28		*g *o	1		灌	灌	灌							灌			
ヨーバルFL	28		*g 1	3		灌	灌	灌				オ						
ウララDF	29		1	2		◎												
セコンドDF	29		1	2		◎												
グレーシア乳	30		1	2			◎	◎				オ					◎	◎
ダニオーテFL	33		1	2													◎	
ダニオーテ2FL	33		1	2													◎	
ファインセーブFL	34	劇	1	3			バ	◎										
バルミノFL	UN		1	3			◎											◎
ブレオFL	UN		1	2				◎			◎							
モレスタン水	UN		1	3														◎
サンヨール乳	-		1	4		◎												
アフアームエクセラ顆水	6・15		1	2								オ		◎				

*1:ピーマンとシントウは使用できる農薬が異なる。

*a:定植時 *b:育苗期後半又は定植時 *c:播種時又は定植時 *d:定植前

*e:鉢上げ時 *f:収穫開始10日前まで *g:育苗期後半～定植当日 *h:育苗期後半

*i:育苗期 *j:生育期(但し収穫前日まで) *k:定植前日～定植当日 *l:生育初期

*m:育苗期後半～定植時 *n:定植後(但し収穫前日まで) *o:定植直後

オ:オオタバコガ カ:ミカンキイロアザミウマ タ:タバコガ

ナ:ミナミキイロアザミウマ バ:タバココナジラミ類

ミ:ミカンキイロアザミウマ及びミナミキイロアザミウマ

灌:灌注処理での登録 施:施設栽培

ピーマン*¹(野菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
疫病	定植前	1. 圃場の排水をはかる。 2. 発病のおそれがあるところは土壌消毒する(土壌消毒の項参照)。	△定植後～定植後3週間までの使用は避ける。
	生育期	・発病初期に次の薬剤のいずれかを施用する。 ピシロックフロアブル 1000倍 ランマンフロアブル 2000倍 ユニフォーム粒剤△ 3g/株	
灰色かび病	生育期	1. 施設・トンネル内は多湿にならないように注意する。 2. 次の薬剤のいずれかを散布する。 カンタスドライフロアブル● 1000～1500倍 ロブラール水和剤● 1000～1500倍	●耐性菌を生じるおそれがあるので連用しない。
うどんこ病	生育期	・発生を認めたら次の薬剤のいずれかを散布する。 ストロビーフロアブル 3000倍 ダコニール1000(FL) 1000倍 トリフミン水和剤● 3000～5000倍 パンチョTF顆粒水和剤● 2000倍	●DMI剤は耐性菌を生じるおそれがあるので連用しない。
白絹病	生育期	・発生を認めたら初期に次の薬剤を土壌灌注する。 リゾレックス水和剤 1000倍 1L/株	
モザイク病 (CMV)		・トマトモザイク病に準ずる。	シルバーマルチ(ムシコン等)によるマルチ栽培は有効である。
黄化えそ病(TSWV)	育苗期～生育期	・トマト黄化えそ病に準ずる。	
斑点細菌病	生育期	・発生を認めたら次の薬剤のいずれかを散布する。 カスミンボルドー(水) 1000倍 Zボルドー(水)* 500倍	気温20℃以上の時発生する。 ピーマン、トウガラシのほかトマトにも発生する。 *野菜類での登録

*1: ピーマンとシントウは使用できる農薬が異なる。

ピーマン*¹ (野菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
アブラムシ類	定植時	・次の薬剤のいずれかを植穴に施用し、土とよく混ぜる。 アドマイヤー1粒剤 1～2 g/株 ダントツ粒剤 1 g/株 ベストガード粒剤 1～2 g/株	
	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アディオソ乳剤 2000～3000倍 ダントツ水溶剤 2000～4000倍 マラソン乳剤 2000～3000倍 モスピラン顆粒水溶剤 4000倍	
アザミウマ類	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 スピノエース顆粒水和剤 5000倍 モスピラン顆粒水溶剤 4000倍	
タバコガ	生育期	・発生が多いときは次の薬剤のいずれかを散布する。 アディオソ乳剤 2000倍 ブレオフロアブル [#] 1000倍	[#] タバコガ類での登録
オオタバコガ	生育期	・発生が多いときは次の薬剤のいずれかを散布する。 アフーム乳剤 2000倍 エスマルクDF* 1000倍 フェニックス顆粒水和剤 2000～4000倍	* 野菜類での登録
ネキリムシ類	播種時又は定植時	・次の薬剤を全面又は作条に施用し、土壌混和する。 ダイアジノン粒剤5 4～6kg/10 a	発生量は多くないので、被害のあった株元の土を調べ、幼虫を捕殺する。
ネコブセンチュウ	定植前	・次の薬剤のいずれかを全面土壌混和する。 ネマトリンエース粒剤 15～20kg/10 a	

*1: ピーマンとシントウは使用できる農薬が異なる。